

町田市公共施設再編計画の策定にあたって

これからの公共施設のあり方について

アンケート調査にご協力をお願いいたします。

町田市は、これからの時代にふさわしい新しい公共施設・公共空間づくりを進めています。

※公共施設とは：市役所が保有している施設及び借りあげて行政サービスを行っている施設のことです。

なぜ今、再編が必要なのでしょう？

- 老朽化した施設がたくさんあるからです。 ⇒ 今後すべての施設は建替えられません。 ⇒ 計画的に再編していく必要があります。
- より一層厳しい財政状況になるからです。

再編で目指すものとは？

- 町田市ではこの公共施設再編という、今までにない大きな取り組みを通じて公共施設・公共空間を将来につながるより良いかたちにしていきたいと考えています。

取り組みの流れ

- 2015 年度「町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）」策定
⇒ 公共施設を計画的に管理するための方針を定めました。
- 2016～2017 年度「町田市公共施設再編計画」検討
⇒ 基本計画に基づき、施設機能分類毎の今後の方向性や取り組みを定めます。

2017 年度は、**2018-2026 年度の取り組みのより具体的な内容について計画の策定を行う予定**です。今回は検討に先立ち、**その前提となる取り組みの方針・考え方**をはじめとするこれからの公共施設のあり方（4 ページ～12 ページ）について、アンケート調査にご協力をお願いいたします。

- 本アンケートは町田市にお住まいの 15 歳以上の方を対象に、無作為に 3,000 人の方を抽出し送付しております。
- 本アンケート調査は**無記名**です。お名前を記載する必要はありません。お答えいただいた内容は、無記名の調査票のみ統計的に処理するため、**記入者が特定されることはありません**。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**切手を貼らずにポストに投函**してください。※アンケート調査票のみ返信して下さい。

[ご回答の期限]

2017年7月17日(月) までに投函して下さい



お問い合わせ 町田市役所企画政策課 電話：042-724-2103 住所：〒194-8520 東京都町田市森野 2-2-22

公共施設マネジメントに関する取り組みは町田市ホームページ（<http://www.city.machida.tokyo.jp>）でもご覧いただけます。

→ トップページ > 市政情報 > 行政経営に関する委員会と計画 > 公共施設マネジメントに関する取り組み

10年・20年後の町田市では
あちこちで公共施設が使えなくな
っているかもしれません…。



なぜならば、

1. 町田市が直面する課題

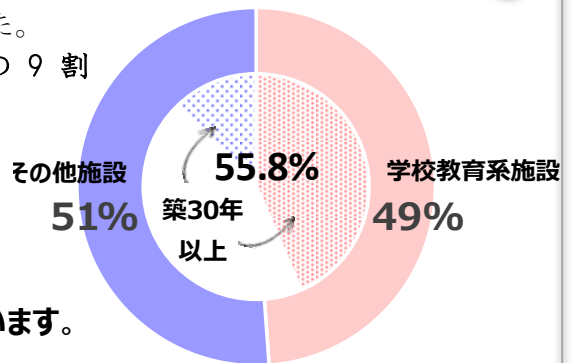
老朽化した施設がたくさん！

町田市の公共施設の
状況

高度経済成長期に対応して1960年代後半から80年代前半にかけて、学校教育系施設を中心に多くの公共施設を整備しました。それから半世紀近くがたち、**学校教育系施設**については、その9割近くが**築30年以上**と老朽化が進んでいます。

■ 公共施設の建築年別延床面積

- 約半分を学校教育系施設が占めています。
- 2015年度現在、**築30年以上の施設が半数を超えています。**



今後、これらの老朽化した建物に対して **建替えや改修に多額の費用が必要** となってきます。

しかし、

減る人口！ 厳しい財政状況！

町田市の人口と財政
状況の見通し

■ 人口

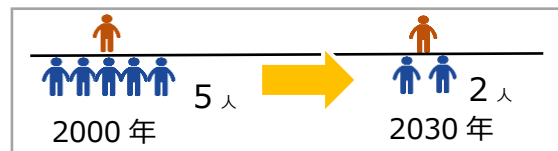
これまで増加を続けてきた町田市の人口も、今後は**減少**に転じると予測されています。

構成も、**生産年齢人口**(15歳から64歳)の人口割合が低くなり、**高齢者**(65歳以上)の割合が高まっています。

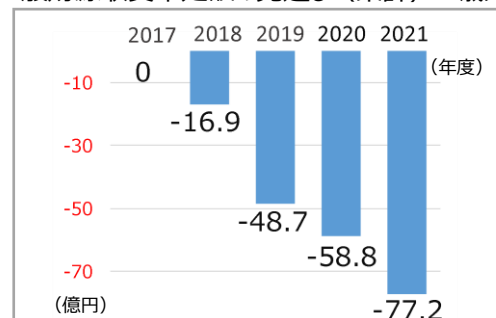
■ 財政

町田市の**歳出額は増加傾向**にあり、これから先5年間の財政見通しでも**77億円以上の収支不足**が予測されています。

65歳以上の高齢者1人に対する
15歳～64歳の人数



一般財源収支不足額の見通し(累計) = 歳入-歳出



2. 課題の解決に向けた第一歩

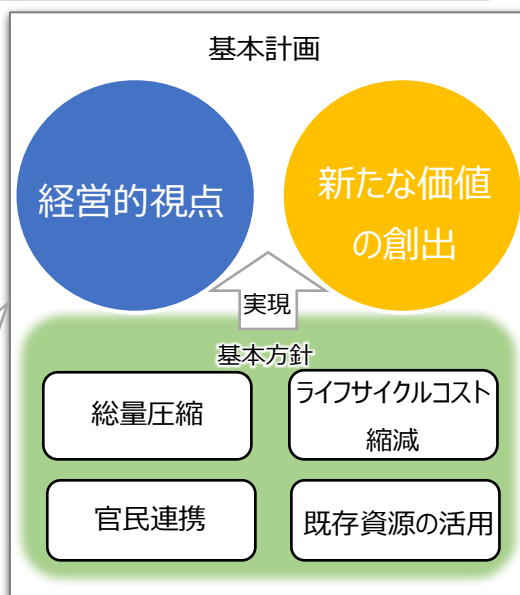
直面する課題に対応していくために、町田市では2016年3月に
町田市公共施設等総合管理計画（基本計画）

を策定しました。

この計画は、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な方針を定めた計画です。

目指すべき姿として、
経営的視点に立った管理運営 と **新たな価値の創出**
 の2つを掲げました。

その実現のため、
建物の総量を減らしていくことや、民間等との連携を強化していくことなどの4つの基本方針を定めました。

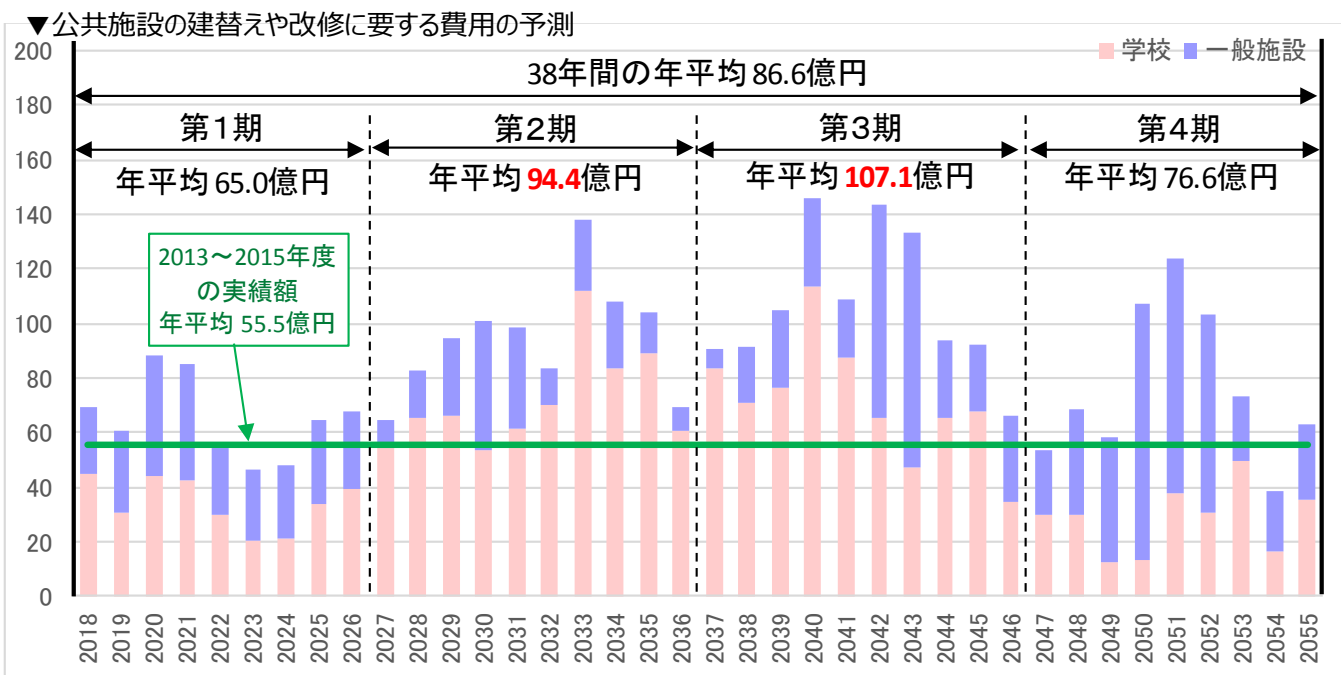


3. なぜ今再編が必要なのか

基本計画の対象期間は2016年～2055年の40年間です。
 今後、想定される公共施設の建替えや改修に要する費用を算出しました。

今後、施設にかかる費用は、過去の実績をはるかに上回ります。

第2期と第3期にかけては特に多くの費用がかかり、**学校分の費用すら賄いきれていない状況**です。



今後、全ての公共施設を建替えることはできません。

今ある資源を活かしつつ、今から計画的に将来に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

そこで、基本計画に基づいて効率的・効果的な取り組みを着実に進めていくために、
 町田市では「**町田市公共施設再編計画**」の策定を進めています。
 対象期間は2018年度から2055年度までの38年間です。

ちょっと待って！再編を進める前に…



これからの公共施設・公共空間のあり方を考える

～ひろがる！つながる！未来の可能性～

将来の人々の暮らしやまちの姿はたくさんの可能性に満ちている！

確かに、今ある公共施設を全て今までと同じかたちで残していくことはできません。

であれば、みんなで「今まで」ではなく「これから」に目を向け、将来の町田を担う世代に きらめく町田のまちを引き継ぐためにも、未来につながる公共施設・公共空間のより良いかたちをみんなで創っていきましょう。

町田市では、この公共施設の再編という、今までにない長期的かつ大きな取り組みを通じて
将来にわたって そこで暮らしている

誰もが地域社会の中で誇りを持ち

豊かに暮らし続けられるまち を

みんなと連携して作りたい

と考えています。

今ある資源を活かし

そのための「場」と「しくみ」をつくる

計画＝「公共施設再編再計画」

これからの公共施設・空間に
求められる要素

多様性・柔軟性・身近・魅力

みんな・共感・わくわくいいき

つながり・気軽さ・誰もが

オープン（開放的）・デザイン

エンターテイメント・食 など

いろいろな活動を実現するしくみ

新たな価値・サービスを
生み出す

みんなが集まりたくなる
魅力的な場

ゆるやかに
みんなが つながる
心地良いコミュニティ

↑市民ワークショップからもたくさんのヒント
をいただきました！

4. 再編で目指すもの

町田市が目指すのは、

単に施設を減らしコストダウンを図る再編ではなく、

「公共施設・公共空間のより良いかたち」

を実現させていくことです。

そのためには、現在あるかたちにとらわれず、経営的視点に立ち、新たな価値を創出

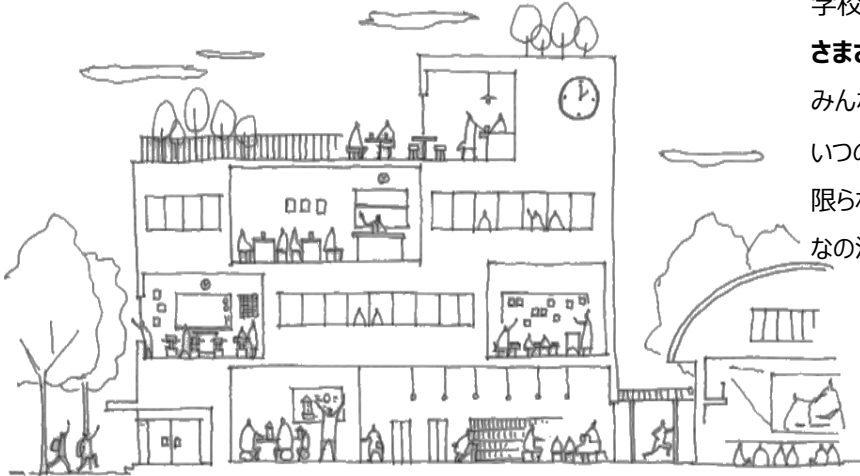
しながら**未来につながるかたちへ** **リデザイン** する必要があります。

Redesign

公共施設・公共空間のより良いかたち

をイメージしてみました

ここでは、今までの施設の良さを引き継ぎながらも、あらゆる人のアイデアや取り組みにより、新たな価値が付け加えられた施設・空間を表現しています。このような場所では、たくさんの人の交流や活動が生まれ、新たなサービスや地域の活力・魅力につながると考えています。



学校や市民センター等の

さまざまなサービスや活動の拠点となりうる建物を複合化し、みんなの好きな場所にしていく。

いつの時代でも人との交流を大事にし、安全に配慮しながらも限られた人のための施設ではない、いろいろな人がつながるみんなの活動の拠点に。

多用途・多目的・多世代

みんなの施設

知恵や工夫を持った人たちと新たに手を組み、サービスを提供していくことで、**地域に新しい魅力**を生み出していく。

魅力的なサービスに見合った費用で運営される。

サービスに見合ったコスト

サービスを受けたり、自分たちも提供したり

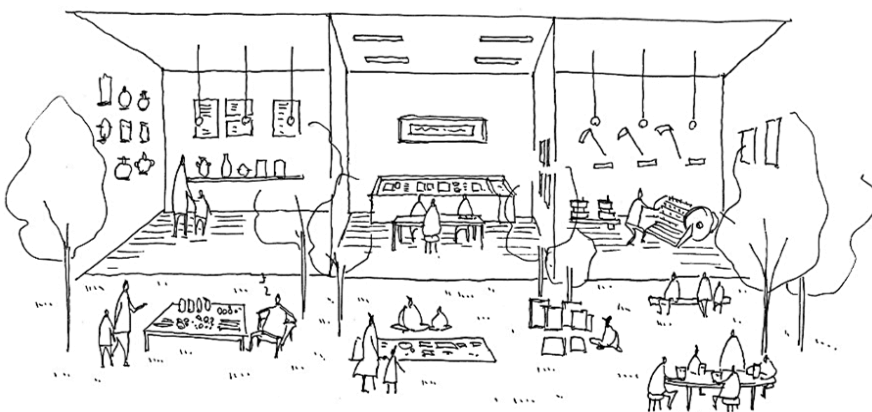


今ある施設にこだわらなければ、もっといろいろな場所でいろいろなサービスに触れられるように。

世代や目的等にとらわれない緩やかな絆でつながる集いの場所。

誰にとっても開放的である

集まりたくなるような温かさがある

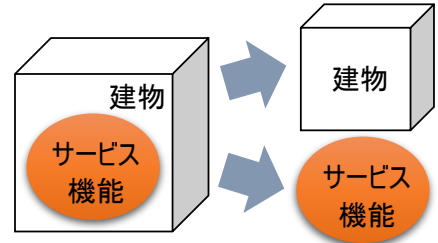


5. より良いかたちを実現するためのポイント

公共施設・公共空間のより良いかたちを実現していくための取り組みを検討していくうえでは、いくつかの検討のポイントがあります。

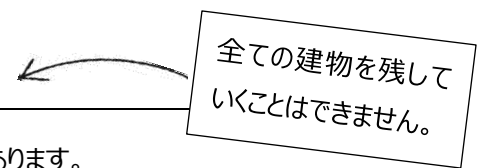
●「建物」と「サービス・機能」は切り離して考える

例えば、市民センターであれば、市民センターという「建物」と、行政窓口や集会施設といった建物の中で提供されている「サービス・機能」に分けて考えます。



●どのような「建物」を維持すべきなのか考える

今後も継続して維持していく建物かそうでないかを検討していく必要があります。



検討のポイント

- さまざまなサービスや活動の拠点とするためにふさわしい
 - ①立地 ②建物の大きさや敷地面積があるもの。 例：学校、駅近の市民センターなど
- その他、廃止することができない機能を提供する施設であり、かつ既存施設の立地から機能を移転することが困難なもの。 例：下水道施設、ごみ処理施設など

また、限られた財源で、適切かつ効率的に建物の維持保全を行っていくために、予防保全の工事（機能回復・向上のための改修）は、原則として「維持する建物」のみに行っていきます。必要なサービス・機能は維持する建物に移していきます。

●「サービス・機能」についても見直しを図る

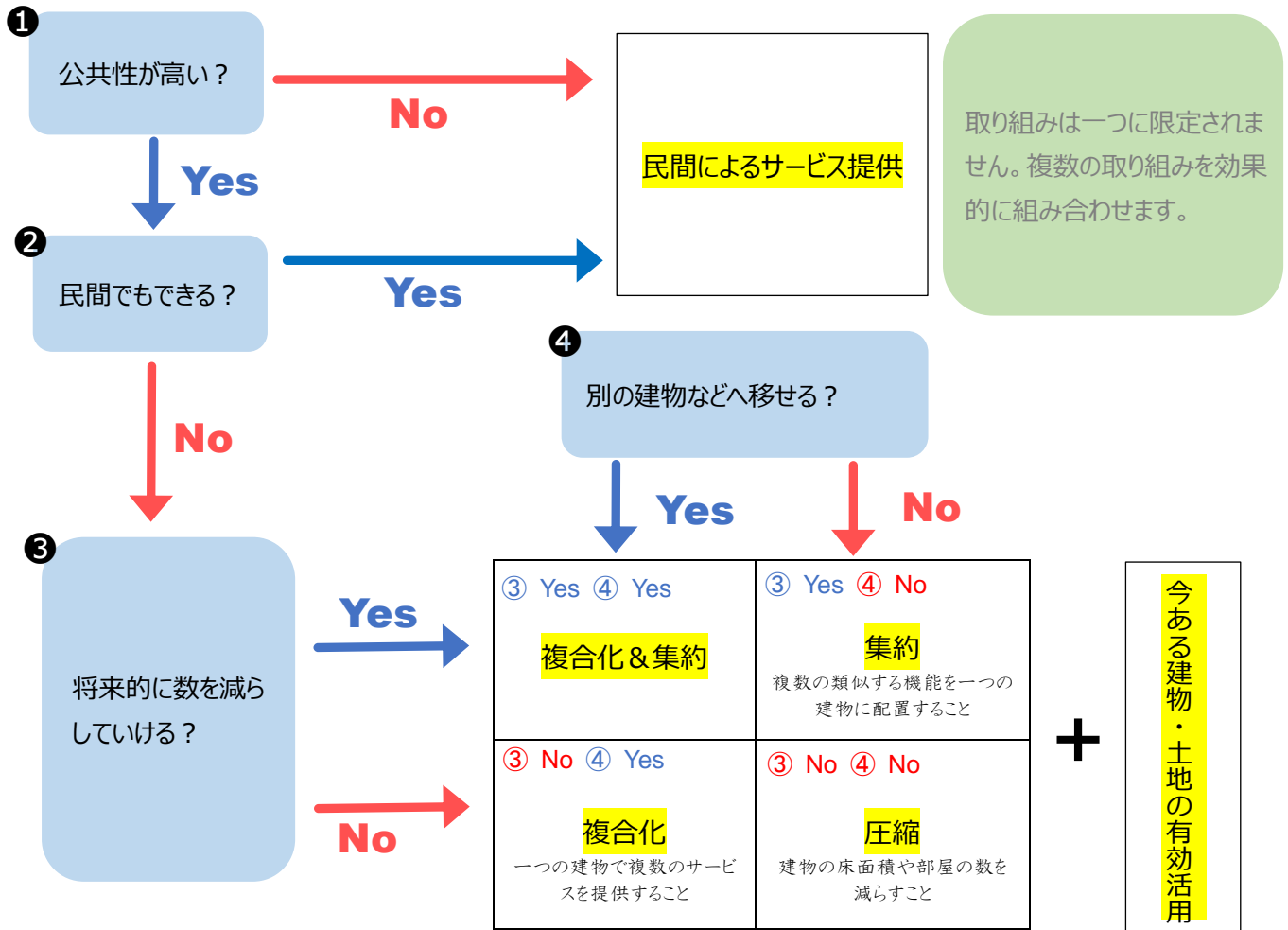
「サービス・機能」についても、社会状況等の変化なども十分に考慮し、時代に見合った行政が提供すべきサービスの量・質の適正化を図ることが重要です。

見直しの4つの視点

- **行政関与の必要性** （法律等による義務か、命や生活に直結するサービスか、など）
- **設置目的との整合性** （設置目的の意義が低下していないか、サービスや利用実態が見合っているか、など）
- **利用状況の妥当性** （稼働率や利用者数、利用頻度、受益者負担は妥当か、など）
- **機能や運営の代替性** （類似する機能が民間等で提供されていないか、民間運営の可能性はないか、など）

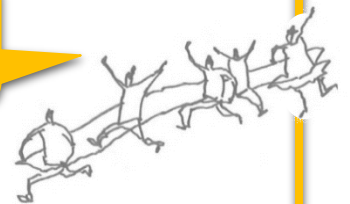
●「サービス・機能」を維持させながら「建物」を減らしていくには

サービスや機能を維持しながら、建物を減らすにはどのような取り組みを行えばいいのでしょうか。次のとおり整理してみました。



みんなの未来はみんなで作る

～さあ！一緒に取り組もう！～



将来を見据えたより良いかたちの公共施設・公共空間の実現は行政だけではできません。

残念ながら施設は刻一刻と確実に老朽化していきますが、将来につながる新たなかたちに変えるチャンスと捉え、今できることをみんなで考えて実行し、より良いかたちを実現していきましょう！

《これまでの取り組みと今後の予定》

2014年度

- ・町田市公共施設マネジメントに関する共同研究（早稲田大学・首都大学東京・町田市）

2015年度

- ・市民参加型ワークショップ「まちだニューパラダイム研究会 -公共施設の未来をデザインしよう-」開催
- ・「町田市公共施設に関するアンケート調査」実施
- ・「町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)」策定

2016年度

- ・「町田市公共施設再編計画策定検討委員会」発足
- ・「施設利用者アンケート調査(市民センター等)」実施

2017年度（予定）

- ・「公共施設再編計画に関する市民説明会」開催
- ・「公共施設再編計画に関するアンケート調査」実施
- ・「町田市公共施設再編計画」策定

6. 施設機能毎の今後の方向性（案）について

再編の考え方に基づいて、施設毎の今後のあり方について方向性や取り組みをまとめました。現在市が所有する公共施設を施設で提供されるサービス機能毎に分類し、整理しています。



《目次》

A.庁舎・窓口施設等…8 ページ

B.集会施設…8 ページ

C.図書館…9 ページ

D.学校…9 ページ

E.保育園・児童発達支援センター…9 ページ

F.学童保育クラブ…9 ページ

G.子どもセンター・子どもクラブ…10 ページ

H.高齢者福祉施設…10 ページ

I.障がい福祉施設…10 ページ

J.生涯学習施設…10 ページ

K.保健施設…11 ページ

L.文化ホール施設…11 ページ

M.美術館・博物館施設…11 ページ

N.スポーツ施設…12 ページ

O.その他の施設…12 ページ

A

庁舎・窓口施設等

〈再編後の将来イメージ〉

- マイナンバー制度やコンビニエンスストアでの証明書発行の拡大により、行政窓口へ出向くことが少なくなり、より簡単に身近な場所でサービスを受けられるようになります。
- 行政窓口だけでなく、より多くのサービスを一度に受けることができるようになります。

庁舎・窓口施設等の取り組みの方向性

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、維持する建物については、複合化・多機能化や長寿命化により地域拠点としての機能強化を図る。

主な取り組み

- 施設が担うべき機能やサービス提供のあり方等を検討する。
- コンビニエンスストアでの証明書発行機能を拡大し、連絡所と市民センターの集約や廃止を含めた配置と機能のあり方を検討する。

B

集会施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 他の施設へ複合化することで、より便利になり、他のサービスに触れる機会が生まれ、新たな交流や活動のきっかけになります。
- 活動や交流が活発になることで、健康増進や地域コミュニティの強化が図られます。

集会施設の取り組みの方向性

集約化や複合化・多機能化により建物の総量の圧縮や地域の活動拠点の強化を図るとともに、管理運営手法等の見直しを実施することで、新たな交流や活動の場を維持し、豊かで持続可能な地域社会づくりを進める。

取り組み

- 集会機能を持つ施設の整理を行い、集約または複合化を図る。
- 利用の少ない時間帯などの施設の使い方を見直す。

C

図書館

〈再編後の将来イメージ〉

- 他の施設へ複合化することで、より多くの人々が図書に触れる機会を創出します。
- 他の機能と連携することで、市民等の活力を活かした、図書に関連した新たなサービスが展開されます。

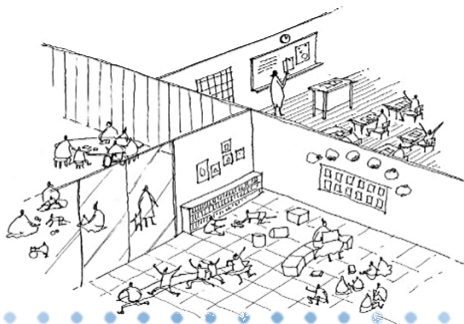
図書館の取り組みの方向性
集約化や複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ、地域の活動拠点に機能を移転することで、本に触れ親しむ機会や本を通じた交流の機会を増やす。また、市民等の活力を活かした図書に関連した新たなサービスにより図書に親しむ機会や場の充足を目指す。
取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 配置が近接している図書館の集約を検討する。 ● 複合施設でない地域館は周辺学校の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。

D

学校

〈再編後の将来イメージ〉

- 適正な学校規模を維持するとともに、地域の拠点となることで、あらゆる人々の交流や公益的なサービスが展開される場になります。



学校の取り組みの方向性
学校施設の適正な維持・管理のため建物の長寿命化や計画的な建替えを実施する。また、児童生徒数の減少に対応した学校の適正規模・適正配置を行うことにより、建物の総量圧縮を図る。さらに、学校施設の有効活用や他機能との複合化・多機能化等により、あらゆる人々が交流し活動する場を創出し、愛着ある地域拠点施設とする。
取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 段階的に規模や配置を見直す。 ● 教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。 ● 教室の未利用時間の積極的な活用を図る。

E

保育園・児童発達支援センター

〈再編後の将来イメージ〉

- 他の施設へ複合化することで、他の機能との連携や多世代の人々との交流が充実し、更に魅力的で利用しやすい地域の子育ての拠点になります。

保育園・児童発達支援センターの取り組みの方向性
複合化・多機能化により建物の総量を圧縮しつつ他機能との連携をさらに深めることでより魅力的な場づくりや充実した支援を行う。
取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園は必要な施設規模に見直し、周辺の学校等の大規模改修や建替えの時期を捉えて、複合化する。 ● 児童発達支援センターは、事業内容と連携しやすい他の公共施設と複合化する。

F

学童保育クラブ

〈再編後の将来イメージ〉

- さまざまな活動の拠点となる学校に複合化することで、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、より魅力的で安全な児童の育成の場になります。

学童保育クラブの取り組みの方向性
地域の拠点となる学校に複合化・多機能化することで、建物の総量圧縮を図る他、学校施設の活用によりさまざまな活動が可能となり、魅力が向上する。
取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ● 学童保育クラブや小学校の大規模改修等の時期を捉えて、校舎内に複合化する。

G 子どもセンター・子どもクラブ

G

〈再編後の将来イメージ〉

- さまざまな活動の拠点となる他の施設に複合化することで、他機能との連携や多世代の人々との交流が充実する、より魅力的で親しめる子どもの居場所や遊び場・乳幼児の子育ての場になります。

子どもセンター・子どもクラブの取り組みの方向性

複合化・多機能化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮する一方、他機能との連携をさらに深めることで、子どもの地域への愛着を育む健全育成と乳幼児の子育て支援の場の維持や魅力の向上を図る。

取り組み

- 子どもセンターは中長期的には周辺の公共施設の更新時期を捉えて複合化する。
- 子どもクラブは新設だけではなく、他の公共施設の転用や既存スペースを有効活用することを検討する。

H 高齢者福祉施設

H

〈再編後の将来イメージ〉

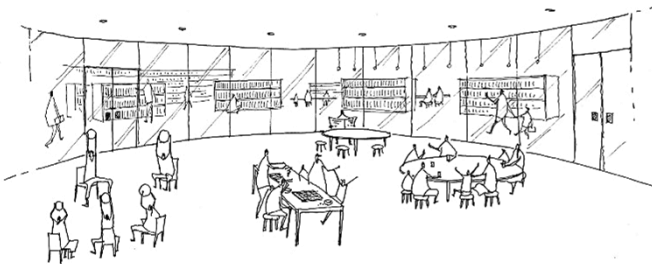
- より多くの場所でサービスを展開することで、より身近な場所でサービスを受けられる機会が増えます。
- 高齢者に限定した居場所ではなく、多世代・多目的の方が集える場へ転換することで、交流やつながりが増えます。

高齢者福祉施設の取り組みの方向性

地域の活動拠点となる施設へ機能を移転することで、建物の総量圧縮を図るとともに、身近な場所でより多くの人がサービスを受けられる機会を増やす。

取り組み

- 高齢者の居場所づくりの地域展開や健康づくり等各種講座について、市民センターや学校等の地域の活動拠点での実施を図る。



I 障がい福祉施設

I

〈再編後の将来イメージ〉

- 公共や民間の施設に関わらず、様々な場面で適切な支援を行うことで、誰もが社会の一員として、ともに育ち、働き、暮らしていくことができます。

障がい福祉施設の取り組みの方向性

市有財産の活用のほか、民間によるサービス提供の活用や民間への移行等により建物の総量圧縮を図りつつ、公共の福祉施設に限らず障がいのある人とない人がともに育ち、働き、暮らすことができる場を維持していく。

取り組み

- 施設の譲渡を含め、民間活力の活用策を検討する。また、民間の運営する施設への代替性がある施設については廃止する。

J 生涯学習施設

J

〈再編後の将来イメージ〉

- 地域への事業展開により、これまで以上に身近な場所で生涯学習に触れることができます。
- 生涯学習センターをより多機能に活用することで、中心市街地の活動拠点になります。

生涯学習施設の取り組みの方向性

施設の複合化・多機能化を図ることや特定用途に限定された施設の見直しにより建物の総量を圧縮する一方、既存施設の活用をはじめとした地域での事業展開により、身近な場所で生涯学習に触れられるようになる他、市民が学習を通して得た知識や技能を地域で活かすことで、地域の活力が生まれる。

取り組み

- 地域での事業展開を強化し実施する。
- 生涯学習センターは生涯学習機能だけではなく、より多機能に活用できる施設として再編を検討する。

K

保健施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 健康福祉会館と保健所中町庁舎を集約することで初期救急提供体制の検討等、医療と保健の連携強化が図られます。

保健施設の取り組みの方向性

集約化や市有財産等の効果的な活用により建物の総量圧縮や施設利便性の向上を図る。

取り組み

- 建物の建替え時期を捉えて、健康福祉会館と保健所中町庁舎を集約化する。
- 施設の新たな有効活用による、健診事業等の地域での実施を検討する。

L

文化ホール施設

〈再編後の将来イメージ〉

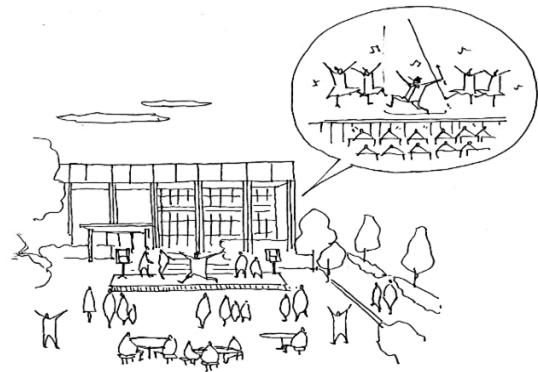
- 民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な管理運営を行うと同時に、より魅力的な付加サービスを提供します。
- 公共施設に限らず文化芸術に関連した他の施設とのネットワークをつくることで、地域との連携強化や町田発の文化芸術の育成を図ります。

文化ホール施設の取り組みの方向性

集約化により建物の総量を圧縮する一方で、建物の長寿命化や民間ノウハウを効果的に取り入れ、施設の一層の有効活用等により、文化芸術に関する活動の場の維持や活性化を図り市の魅力を向上させる。

取り組み

- 民間ノウハウを活かした管理運営により、収益性の向上を図る。



M

美術館・博物館施設

〈再編後の将来イメージ〉

- 町田市の文化や歴史を伝える資料を集約することで、より魅力的な展示を行い多くの人々が文化や歴史に触れることで、市への愛着の醸成や生涯学習などに寄与します。
- アウトリーチ展示によって、特定の施設に限らず、文化や歴史に触れる機会が増えます。
- 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、公園の空間や賑わいと一体となった文化・芸術活動の拠点となっており、市内外から多くの人々が集まります。

美術館・博物館施設の取り組みの方向性

集約化や複合化・多機能化により建物の総量圧縮や施設の魅力の向上を図る。また、アウトリーチ展示等により文化や芸術等に触れる機会を増やす。

取り組み

- 町田市の文化や歴史を伝える資料は、集約化を図り維持管理コストを削減する。また、施設間協力など進め、アウトリーチ展示も検討する。
- 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、他施設からのアウトリーチによる展示などの受け皿として活用を検討する。

※アウトリーチとは、公的機関、公共的文化施設などが行う、地域への出張サービス。

スポーツ施設

N

〈再編後の将来イメージ〉

- 地域の活動拠点となる学校でのスポーツ活動が盛んになることで、より多くの人々がスポーツに触れる機会が増えます。
- 民間ノウハウを効果的に取り入れることで、より経営的な管理運営を行うと同時に、より魅力的な付加サービスを提供します。

スポーツ施設の取り組みの方向性

集約化や市有財産等の活用により建物の総量を圧縮しつつスポーツ活動の場や機会を確保し、民間ノウハウを効果的に取り入れることでさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。

取り組み

- 利用料金の見直しや、民間ノウハウを活かした管理運営等により、収益性を向上させる。
- 学校等の既存施設や遊休地の効果的な活用を図る。

O

その他の施設について

施設名	再編の取り組みの方向性
防災施設	災害から市民の生命を守るための施設として、適切に維持していくために長寿命化する。既存施設を有効に活用することで不足する防災施設を充足する。
その他集会施設	地域の自主的な維持管理に移行することで、町内会・自治会が所有する集会施設と同様に、効果的・効率的な運営を目指す。
その他教育施設	市有財産として積極的な活用を図ることで、新たなサービス機能を提供する場や収入源とする。
その他高齢者福祉施設	民間によるサービス提供への移行や、複合化・多機能化、市有財産の活用等で建物の総量圧縮を図る。
その他展示施設	文化財は適切に維持保全していく一方、その他の展示施設は市有財産の活用により建物の総量を圧縮する。
市営住宅	適正かつ効率的な維持管理を行い、建物の大規模改修や建替えの際は、社会状況に合わせた更新をする。
医療施設	市民の生命を守るための施設として、効率的かつ適切に維持していく。
レクリエーション・観光施設	事業の見直しや複合化・多機能化等により建物総量の圧縮を図る一方、民間や市民等の活力によりさらなる魅力向上や運営の効率化を図る。
産業系施設	事業の見直し、複合化・多機能化、さらなる民間活力の導入により施設総量の圧縮を図る他、さらなる収益の増加や運営の効率化を図るとともに賑わいや交流を創出する。
供給処理施設 (ごみ処理施設等)	生活に必要な施設として、効率的かつ適切に維持していく。
下水道施設	人々の暮らしや衛生環境の確保に直結する施設として、効率的かつ適切に維持していく。
駐車場・自転車等駐車場	さらなる民間活力の導入により効率的かつ需要に見合ったサービス提供を行う。施設更新の際は、土地の貸し付け、整備、長期の維持管理まで含めた民間活用を検討する。

みんなの力を合わせて、

将来を見据え、次の世代にも引き継げる

公共施設・公共空間の より良いかたち を実現しましょう！



公共施設マネジメントに関する取り組みは町田市ホームページ (<http://www.city.machida.tokyo.jp>) でもご覧いただけます。 → トップページ > 市政情報 > 行政経営に関する委員会と計画 > 公共施設マネジメントに関する取り組み